

万博の人権実践を次に繋ぐ

～EXPO2025大阪・関西万博における
国際イベントの実践知～



NIJIIRO DIVERSITY
認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

自己紹介 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ



村木 真紀
虹色ダイバーシティ
理事長



有田 伸也
虹色ダイバーシティ
理事



長野 友彦
虹色ダイバーシティ
マネージャー

自己紹介 社会福祉法人 大阪ボランティア協会



永井 美佳

社会福祉法人大阪ボランティア協会
常務理事・事務局長

共有したい3つの知見

1. 人権の視点を制度ができる前に取りいれる重要性
2. 「声なき声」を制度の中心に置いて捉える重要性
3. 人権の取り組みは、設計と運用を往復しながら修正する仕組みとして捉える重要性

アジェンダ

I. 団体紹介

II. 大阪・関西万博から得られた知見

III. クロストーク

「国際イベント×ソーシャルセクター」

これからの国際イベントへ期待することは？

I. 団体紹介



NIJIIRO DIVERSITY
認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

ミッション：Bridging the gaps for diversity and inclusion
SOGI (Sexual Orientation , Gender Identity) による
格差のない社会をつくり、次世代に繋ぎます

- ・大阪と東京に拠点
- ・正職員9名、アルバイト1名、インターン3名にて活動中
- ・2013年にNPO法人化、2020年に認定NPO法人格を取得
- ・LGBTQに関する独自の調査研究データを元に、日本の大手企業にLGBTQ施策を広げる
- ・2022年4月に大阪・天満橋にプライドセンター大阪を開所



社会福祉法人 大阪ボランティア協会

ミッション：より公正で多様性を認め合う市民主体の社会をつくるために、多彩な市民活動を支援するとともに、他セクターとも協働して、市民セクターの拡充をめざしています。

→目標①市民自治の確立

→目標②創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行

→目標③市民の力が発揮されるための支援

- ・大阪に拠点、日本で最も歴史の長い民間の市民活動推進機関
- ・ボランティアスタッフ104人と有給スタッフ17人（正職員5・嘱託職員2（シニア・経理）・企業出向1（シニア）・アルバイトスタッフ9）の協働運営体制、組織内にチーム・委員会・ユニット等25主体が活動
- ・1965年に設立、69年に社団法人化、93年に社会福祉法人改組、60周年を迎えた
- ・組織内に「ボランティア・N P O・企業市民活動の推進」「情報出版・ボランタリズム研究所」「災害支援」の3つの部門、2024年度の事業活動費は年間8,440万円

II. 大阪・関西万博から得られた知見



NIJIIRO DIVERSITY
認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

知見①

1. 人権の視点を制度ができる前に取りいれる重要性

—設計の前提・タイミングの視点—

両団体のいずれの取り組みにおいても、比較的早い段階で行政や万博関係者との関係性を築くことができたことで、一定の効果を万博の取り組みの中で発揮することができていた。

一方で、当初の制度設計や運営体制の前提の中では、ボランティアを「運営補助」として位置付けざるを得ない側面や、人権デューディリジェンスの枠組みが一般的な人権課題を中心に構成されていた側面もあった。そのため、後から加えられた視点によって改善が図られた部分はあったものの、前提そのものを大きく見直すところまでには至りにくかった。

大阪・関西万博 開幕前の取り組み 1/2 (認定NPO法人虹色ダイバーシティ)

人権侵害の予防・リスク軽減



(1) 博覧会協会職員向け研修(2024年8月)

日本国際博覧会協会 職員向けe-ラーニング「人権(LGBTQ)の取組に関する職員研修」の実施

＜内容：基礎編・応用編 対象者：約700名＞

(2) 博覧会運営スタッフ向け研修(2025年3月)

パビリオン運営スタッフ向け「人権(LGBTQ)に関する博覧会運営スタッフ向けeラーニング」の実施

＜内容：基礎編・応用編 対象者：552名＞

(3) ゲストサービスアテンダント向け研修 (2024年12月～2025年2月)

万博会場内の案内所、迷子・忘れ物対応、会場巡回等を行うゲストサービスアテンダント向けLGBTQ研修の実施

＜対象：コアクルーおよびサポートクルー 対象者：約1,000名＞

(4) 「人権ワーキング」有識者(2024年6月～2026年3月)

「持続可能性委員会 人権ワーキンググループ」の委員に虹色ダイバーシティ理事の有田が就任

© 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 2026

大阪ボランティア協会の取り組み

1. 博覧会協会、府市万博推進局と「万博ボランティア」のあり方についての意見交換（2022年～現在）

万博ボランティアの創意工夫が生かされるような運営がされること、終了後もレガシーとして、市民活動の更なる活性化につながるよう働きかけを行った

2. オンライン緊急フォーラム「私なら、こうしたい!! 大阪・関西万博のボランティアコーディネーション～次代」（2023年4月）

大阪府市万博推進局が「大阪・関西万博にかかるボランティア運営業務」の委託事業者の公募を始めましたタイミングで実施。参加者62人、後日視聴回数135

大阪ボランティア協会の取り組み

3. SUSPON（東京オリパラをきっかけにできたNGO/NPOネットワーク）の事例をヒアリング（2023年9月）

「大阪・関西万博」に並行して「市民側のフォーラム」を、実行委員会形式で作ったのが「SDGs万博市民アクション」（2024年1月～現在）
<主要参加団体 12団体※環境団体、国際協力団体、中間支援団体など>

4.ボランティア推進機関発行のボランティア情報を設置

開幕前の「万博ボランティアセンター」（大阪市中央区）に、ボランティア推進機関発行のボランティア情報を設置し、会場ボランティアとまちボランティアへ提供（2024年12月頃～）



大阪ボランティア協会の取り組み

5.市民・NPOのまちづくりへの参画・協働拡大の提案

「万博を契機とする市民・NPOのまちづくりへの参画・協働拡大への提案」を博覧会協会、府市万博推進局と市民協働部局へ提案し、意見交換（2025年2月～3月）

6.ボランティア基本研修の「ダイバーシティ（D）＆インクルージョン（I）」での気づき

D&Iの考え方 | 文化の多様性 | 性の多様性 | 世代・ライフステージの多様性 | 心身機能の多様性、という5つの視点でまとめられており、分かりやすい内容だった<会場ボランティア14,000人、大阪まちボランティア16,000人が当選（のべ30,000人）が対象>



知見②

2. 「声なき声」を制度の中心に置いて捉える重要性

—価値判断・視座の視点—

両団体のいずれの取り組みにおいても、万博の制度や運営の中では、違和感や不安が必ずしも要望や苦情として表に現れるとは限らなかった。性の多様性に関する課題や、ボランティアらしく活躍できずに感じる戸惑いの多くは、声を上げること自体に心理的・関係的なハードルがあり、制度を検討する際の前提として扱われにくい傾向があった。

そのため、制度設計においては、すでに表に出ている声や顕在化した課題だけでなく、声になりにくい立場や状況をあらかじめ想定し、何を制度の中心に据えて考えるのかという視座そのものが重要であることが示唆された。

救済へのアクセス

万博開催中におけるプライドセンター大阪の通常開館

- ・海外からの来館者増加を見越して、スタッフが英会話レッスンを毎週受講
- ・大阪・関西万博を訪れた方も多く来館された
- ・島根県から大阪に修学旅行に訪れた高校生が、万博訪問とともに、プライドセンター大阪での教育プログラムを受講



大阪ボランティア協会の取り組み

1.ボランティアの「特長」は生きたか

機動的な動き、個々に応じた温かい対応、多彩な取組み、開拓的・創造的な取組みは？

2.市民社会発、勝手にレガシー

大阪ボランティア協会が、公式LINE「万博ボランティア★ネクストチャレンジ」を開設。2025年大阪・関西万博のボランティア活動に参加した人に、万博後も地域貢献・社会貢献活動に参加してみたくなるような情報提供を目指す（2025年12月～2027年3月）

知見③

3. 人権の取り組みは、設計と運用を往復しながら修正する仕組みとして捉える重要性

—改善・モニタリングの視点—

万博においては人権配慮に関する方針や設計は一定程度整えられていたが、運用の中でその機能状況を継続的に確認し、想定外の課題や違和感を調整につなげていく仕組みについては検討の余地があると感じられた。

人権の取り組みを継続的に機能させるためには、運用の中で得られる気づきを関係者間で共有し、必要に応じて見直していく視点を、設計に組み込んでおくことが重要である。

これにより、個別対応にとどまらず、改善に活かしながらも人権配慮を継続的な取り組みとして積み重ねていくことが可能となる。

モニタリング（プライドマンス 2025年6月）



(1) 各パビリオンでのプライドフラッグおよびレインボーカラーの展示

- ・カナダ、オランダ、ドイツ、オーストラリア、EU 等（ドイツは期間中ずっと掲示）

(2) スタッフ向けイベント

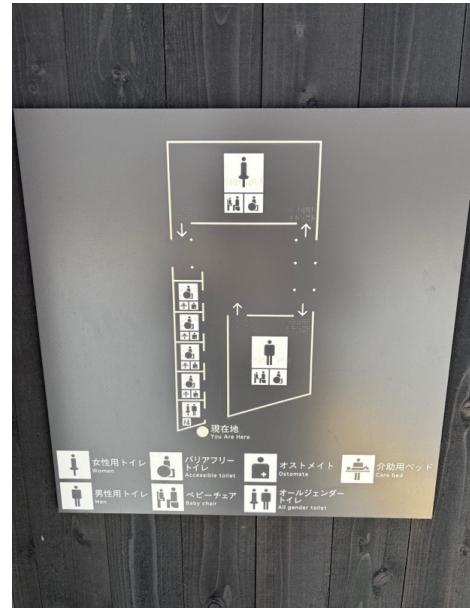
- ・スペインパビリオンにて、スタッフ向け交流イベントの開催

(3) 情報発信

- ・大阪観光局ホームページ「Visit Gay Osaka」にて期間中の取り組みに関する英語での発信

<https://visitgayosaka.com/column/columns/expo-2025-pride.html>

モニタリング（会場内設備・情報発信）



（1）オールジェンダートイレの設置

- 会場内トイレの45か所のトイレのうち、4割(18か所・計108基)の設置
- Osaka Metro中央線 夢洲駅に6基設置

（2）デジタルサイネージでの発信

- 会場内デジタルサイネージで「人権デュー・ディリジェンス」および「通報受付窓口」の告知（多言語案内）
- プライド月間の周知

（3）「平和と人権ウィーク」期間中のイベント

- ベルギーパビリオンでのクィアアーティストのパフォーマンス
© 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 2026

大阪・関西万博 開幕前の取り組み 2/2 (認定NPO法人虹色ダイバーシティ)

人権侵害の予防・リスク軽減

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
事務総長 石毛 博行 殿

2024年10月8日
特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ

大阪・関西万博におけるLGBTQに関する対応を求める要望書

謹啓 時下益々ご盛況のこととお喜び申し上げます。
弊団体は、SOGI（性的指向、性自認）による格差のない社会をつくり、次世代に繋ぐことをミッションに掲げる大阪のNPO団体です。LGBTQ等の性的マイノリティとその家族、アライの尊厳と権利を守り、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指しています。
地元大阪で開催される2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の成功に向け、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が定める「人権方針」を支持し、協力してまいります。私たちは、万博での人権に関する取り組みが、世界における人権擁護の重要なプラットフォームとなり得ると信じています。
万博に参加する来場者や関係者の職員・スタッフにはLGBTQの当事者も含まれます。また、万博参加国や地域の中にはLGBTQであることを犯罪とみなし、迫害される可能性のある国や地域が含まれていることも事実です。
私たちは、大阪・関西万博に関わるすべての人々の人権が尊重され、いかなる人権侵害も発生しないことを強く願っています。そして、そのためには必要な行動を実行してまいります。
既に実施されている人権に関する取り組みに加え、より包括的かつ具体的なご提案をさせていただきたく、以下の内容につきまして是非ご一考いただければ幸いです。

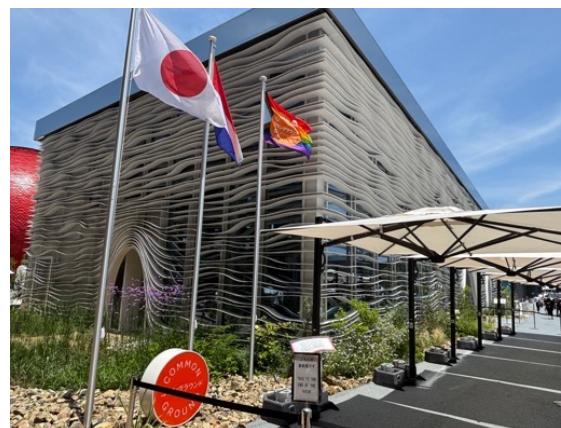
謹白

記

| 分類 | 内容 | 要望 |
|-----|--------------------------|--|
| 会期前 | 人権方針 | 人権方針に記載された内容を、該当するすべての関係者に改めて周知・徹底をしていただきたい。 |
| | 調達コード | サプライヤー等の関係者に、調達コードの順守について改めて周知・徹底していただきたい。 |
| | 施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン | LGBTQに関することも含めており、該当するすべての関係者に改めて周知・徹底をしていただきたい。 |
| | 専用窓口の設置 | 人権に関する専用の相談および通報受付窓口を早急に設置していただきたい。 |

大阪・関西万博 開幕中の取り組み

イベント開催



＜登壇者＞

- ・公益社団法人Marriage for All Japan
共同代表 寺原 真希子氏
- ・オランダ王国大使館 ダン キム氏
- ・積水ハウス株式会社 木原 淳子氏
- ・認定NPO法人ReBit代表理事 薬師実芳氏
- ・一般社団法人ひと&コト 市氏

＜司会＞

- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 理事
有田 伸也

(1) オランダパビリオンでのトークイベント開催(8月7日)

テーマウィーク「平和と人権ウィーク」開催期間中に、オランダパビリオンにてトークイベント
「婚姻の平等、その先の社会：オランダと共に考えるat万博」を共同開催

参加者：80名

関西にゆかりのある企業、LGBTQ支援団体（NPO法人QWRC、Tsunagaryオフィス合同会社、MASH大阪等）
および在阪団体（一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター、認定NPO法人Homedoor等）をご招待

イベント登壇



(2) ウーマンズパビリオンでのトークイベント登壇(8月9日)

ウーマンズパビリオン「WA」スペースでの関西大学主催トークイベント
「True Celebration 一成人式も、就職も、結婚も。“自分らしく”祝える未来へ」

に虹色ダイバーシティの長野が登壇

誰もが“その人らしく”人生を祝える社会のあり方を、多様な立場の実践者とともに考える
機会とした。

参加者：60名

＜登壇者＞

- ・株式会社クーゼス 田中 史緒里氏
- ・関西大学キャリアセンター 諏訪 穂子氏
- ・コカ・コーラボトラーズジャパン 西村 広二氏
- ・株式会社ティクアンドギブニーズ 金井 友香里氏
- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 長野 友彦

＜モダレーター＞

- ・関西大学関大アライ会 西脇 菜穂子氏

イベント開催



<登壇者>

- ・公益社団法人Marriage for All Japan
共同代表 寺原 真希子氏
- ・大阪大学全学教育推進機構 教授
金森 サヤ子氏
- ・認定NPO法人虹色ダイバーシティ 理事長
村木 真紀

(3) ウーマンズパビリオンでのトークイベント開催(9月18日)

ウーマンズパビリオン「WA」スペースでの大阪大学D&Iセンター×虹色ダイバーシティの協働トークイベント

「LGBTQを含む誰もが暮らしやすい未来社会とは?」を開催

大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実社会でどう描き、

LGBTQも含む誰もが暮らしやすい未来社会をどう創るかについて、ゲストとともに考えていく機会とした。

参加者：80名

Ⅲ.クロストーク

「国際イベント×ソーシャルセクター」
これからの国際イベントへ期待することは？



NIJIIRO DIVERSITY
認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

共有したい3つの知見

1. 人権の視点を制度ができる前に取りいれる重要性
2. 「声なき声」を制度の中心に置いて捉える重要性
3. 人権の取り組みは、設計と運用を往復しながら修正する仕組みとして捉える重要性



EXPO2025 大阪・関西万博 虹色ダイバーシティの取組 報告書



NIJIIRO DIVERSITY
認定NPO法人 虹色ダイバーシティ